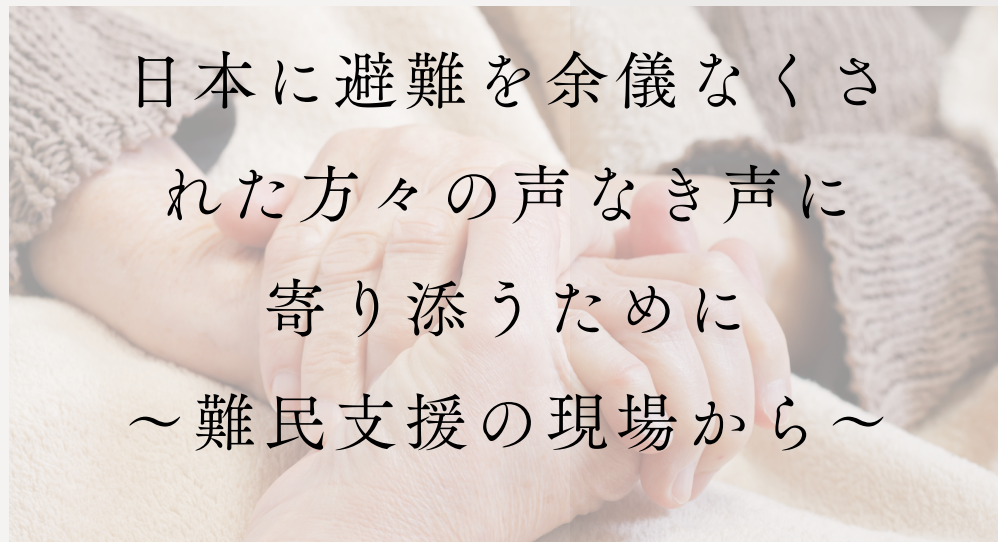




いのちに  
関する  
学習会  
オンライン



日本に避難を余儀なくさ  
れた方々の声なき声に  
寄り添うために  
～ 難民支援の現場から～

2023年10月9日(月・祝) 14:00～16:30

女性部会では、これまで宗教を持つ女性の立場からいのちの問題について考えるために、「いのちに関する学習会」を開催し、教育、貧困、医療等さまざまな視点から学びを深めてきました。今回の学習会では、日本に避難を余儀なくされた方々をとりまく問題を学び、特に女性たちの声なき声に寄り添っていくために、一人ひとりの行動につなげていく契機となることを期待しています。

プログラム ※プログラムは都合により変更になる場合がありますので予めご了承ください。

※敬称略

総合司会 松井ケティ（女性部会委員／清泉女子大学教授）

- 14:00 開会・平和の祈り  
開会挨拶：森脇友紀子（女性部会部会長／カトリック東京大司教区アレルヤ会会長）
- 14:10 ①日本における難民受入れの現状と課題  
スピーカー：大野俊（清泉女子文学部地球市民学科教授・人文科学研究所長）
- ②難民当事者の声  
※動画
- ③難民への支援「難民支援現場の事例①」  
スピーカー：有川憲治（NPO法人アルペなんみんセンター事務局長）
- ④難民への支援「難民支援現場の事例②」  
スピーカー：高岩璃莉亜（清泉女子大学文学部地球市民学科4年生）
- 15:15 質疑応答
- 15:35 休憩
- 15:40 グループ別対話「私にはこんなことが出来る」
- 16:10 全体共有
- 16:27 閉会挨拶：河田尚子（女性部会副部会長／アル・アマーナ代表）
- 16:30 平和の祈り・閉会

# 発題者プロフィール ※敬称略



## 大野 俊 (おおの しゅん)

九州大学理学部を卒業後、毎日新聞社で22年余り記者として勤務。この間、社会部、外信部などに所属し、マニラ支局長やフィリピン外国人特派員協会会長も務めた。同社在職中にフィリピン大学で修士号（フィリピン研究）、退職後にオーストラリア国立大学で博士号（東アジア・東南アジア研究）を取得。九州大学アジア総合政策センター教授・センター長、中国社会科学院日本研究所客員研究員、京都大学東南アジア研究所特任教授などを経て、2012年から清泉女子大学地球市民学科教授、2022年から同大学人文科学研究所長も務める。単著に『ハボン—フィリピン日系人の長い戦後』、Transforming Nikkeijin Identity and Citizenshipなど、編著に『メディア文化と相互イメージ形成—日中韓の新たな課題』、International Migration of Southeast Asian Nurses and Care Workers to Japan under Economic Partnership Agreementsなどがある。

## 有川憲治 (ありかわ けんじ)

大学在学中、インドシナ難民定住支援の関わりを通して、アジアに関心が広がり、1988年からフィリピン・ミンダナオ島で4年間、農村開発に携わる。1995年から困窮する来日した外国人（移民・難民）の支援活動に従事。2020年、住居に窮する難民のためのシェルターとして、NPO法人アルペなんみんセンター（鎌倉市）を設立。NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク理事。NPO法人なんみんフォーラム元理事。



## 高岩璃莉亜 (たかいわ りりあ)

国内外の旅行が趣味で、今夏はスペインを旅した。在日外国人の問題に関心があり、常にアンテナを張って情報をえている。2022年8月には地球市民学科の選択科目であるマレーシア・フィールドワークに参加。ミャンマーから避難してきたロヒンギャ族の子弟向けの小学校を訪問し、児童らから話を伺った。この半年余りは、日本で暮らす難民らの自立支援にあたる社会福祉法人「さぼうと21」に所属し、同法人が群馬県館林市居住のロヒンギャの小・中学生向けに行う日本語学習支援活動にボランティアの一員として従事している。

